

## [028]九州大学総合研究博物館ニュース

<https://hdl.handle.net/2324/1933266>

---

出版情報：九州大学総合研究博物館ニュース. 28, pp.1-, 2017-03. The Kyushu University Museum  
バージョン：  
権利関係：



The Kyushu University Museum

# NEWS

九州大学総合研究博物館ニュース

n°  
28

ツマベニチョウ



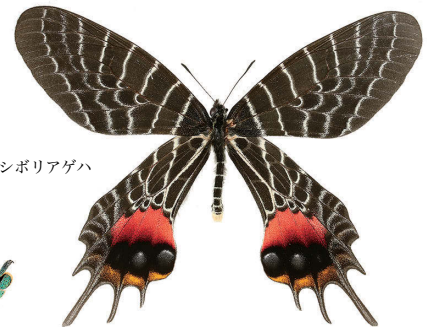
ジャンソン  
コガネハムシ



オオルリアゲハ



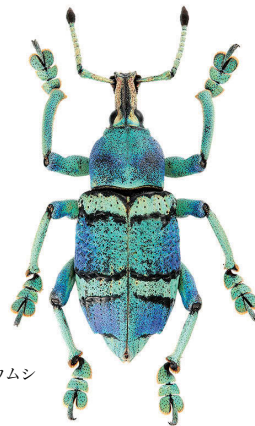
シボリアゲハ



ディクロプスノコバ  
カナブン



ニシキホウセキゾウムシ



October

2017

ヒメクロゼミ



## 「新種発見！ 昆虫冒険旅行」を開催しました。

新館長に就任いたしました緒方です。

この夏、天神地下街、箱崎キャンパス旧工学部本館、志摩歴史資料館で公開展示を行いました。

九州大学所蔵の普段目にするのできない魅力的な昆虫たちを展示、多くのご来場をいただきました。

これからも九州大学の資料を用いてわくわくするような展示を行っていきます。ご注目ください。

総合研究博物館第8代館長  
緒方 一夫



## 催事・展示クローズアップ

### I 平成29年度 九州大学開学記念行事

—学内施設一般公開：展示室・収蔵室の標本公開と『地質の日』記念企画—

期間：2017年5月13日

場所：旧工学部本館3階総合研究博物館常設展示室・列品室、2階4番講義室、第3分館

担当：米元 史織・中西 哲也・前田 晴良・岩永 省三



動物骨格を見つめる親子



独特な時間が流れる会議室



削岩機



前田先生の特別講義



列品室にも人が集まります

九州大学は毎年5月11日を「本学記念日」と定めており、5月11日には伊都キャンパスの椎木講堂で開学記念式典を行い、その週の土曜日に学内の諸施設を公開しています。

博物館では、本館の3階の常設展示室、列品室、4階の第2会議室、第3分館1階の骨格標本、貴重地質・鉱物標本室を公開しました。さらに、『地質の日』（141年前の1876年5月10日にベンジャミン・スミス・ライマンらによって広域的な地質図が日本で初めて刊行され、1878年5月10日に内務省地理局地質課が定められました。これを記念して2007年に設定された記念日です）に因み、本館の2階の4番講義室で前田晴良教授による特別講義『地質の日』記念企画：化石のメカニズムを探る、が行われました。

これらの標本群は、普段は公開されておらず、多くの方に見ていただく機会は年に数回しかありません。しかし、どの標本室にも九州大学総合研究博物館でしか見られないような貴重な資料があります。列品室では大型の鉱物標本や超高品位の金鉱石を含む1000点に及ぶ標本や炭坑や製錬炉の模型、削岩機を見ることができます。第2会議室は帝国大学時代の雰囲気をよく残しており、調度品の作りの細やかさ、艶やかな色合いには目を見張る

ものがあり、さらにそこに飾られた青山熊治画伯の巨大な油絵は圧巻です。第3分館には、200点を超える動物骨格標本（ニュース26号掲載）や日本3大鉱物コレクションの1つである高壮吉鉱物標本など理学部の歴代先生方が収集した鉱物・岩石・鉱石・化石標本があります（ニュース本号掲載）。開学記念行事の際にはこれらを専門学生や先生の解説付きで見ることができます。

前田先生の特別講義は、アンモナイト化石コレクションを実際に触ることもできるまたとない機会です。訪れた人がふと気になって手に取った化石標本の重さや手触りなどを体験しながら、その標本にまつわる話を、最先端の研究成果をふまえて前田先生が揚々と語ってくれる博物館の人気の企画です。

県外からも多くの方が足を運んでくださり、当日は120名を超えるお客様が訪れてくださいました。九州大学の歴史とともに蓄積されてきた資料、これらは大学で行われてきた研究と後進の教育のために用いられ、多くの成果を生み出してきました。資料を通して九州大学の知の集積に触れることで、一人でも多くの人に新しい関心を抱いていただければ幸いです。



# Close-up Event & Exhibition

## II 骨を識る

### —骨の見方、お教えします—

#### 福岡ミュージアムウィーク2017に参加しました

期間：2017年5月13日(土)～21日(日)(展示は8月6日まで)

場所：旧工学部本館3階総合研究博物館常設展示室

担当：米元史織 開示研究系・助教 岩永省三 一次資料研究系・教授

2017年の福岡ミュージアムウィークにあわせて、九州大学総合研究博物館の常設展示室で特別展示「骨を識る—骨の見方、お教えします—」を開催しました。ミュージアムウィークは5月18日の「国際博物館の日」にあわせて博物館・美術館の魅力を広く知ってもらおうと、福岡市と近隣の市町村にある博物館・美術館17施設が連携して行っている企画です。今年から北九州ミュージアムウィーク(5月6日～21日)とも連携しており、例年よりもさらに大規模なイベントとなりました。

今年開催した展示のテーマは「ヒトの骨」。九州大学総合研究博物館には、1953年以来、発掘・収集され続けてきた弥生時代を中心とした縄文・弥生・古墳・中世・近世と、日本の歴史を辿ることのできる古人骨が約3000体収蔵されています。これらは現在も研究に用いられ、学内の研究者だけでなく、国内外から毎年沢山の研究者が調査に訪れる貴重な資料です。

しかし、多くの人にとって骨を研究するという事はあまり



左上) 会場の様子 下段左) 今年のスタンプ ハシボソガラス 下段右) 今年の特典 ブックカバー 右) ポスター

馴染みのないことだと思います。すべての人の体の中にも関わらず、「怖いもの」や「お化け」のイメージが付きまとうような・・・。「骨」の何を見たら何がわかるのか? そんな疑問に答えるべく、骨から「性別」と「年齢」を推定する方法を、研究者が実際に観察しているポイントがわかるように展示を行いました。この展示を見た方が、自分の骨もこうなのだろうか、など少しでも骨に興味をもっといただけるようになればと願っています。

さらに、第3分館の動物骨格標本と合わせてみていただくことで、ペンギンやライオンなど身近な脊椎動物たちとヒトとの違いや類似から生物の進化の道筋の一端に触れていただけたなら幸いです。

今回の展示では、ポスターを福原恵美子さん(研究支援推進員)と茂泉千尋さん(協力研究員)に作成いただきました。九州大学文学部考古学研究室の学生も、展示の準備や展示解説員として協力してくださり、学生による解説もとても好評でした。

## COLUMN 博物館の活動

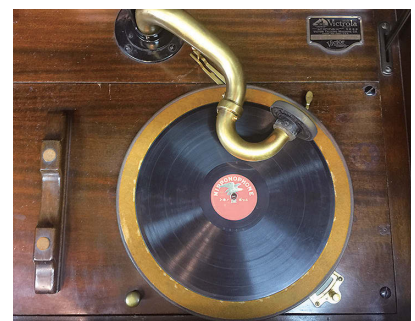
### 寄贈SPレコード

担当：大久保 真利子 専門研究員

去る4月9日に九州大学総合研究博物館でおこなわれた「ミュージアムカフェ」ではじめて田村コレクション内のSPレコードの音を拝聴しました。大学院在学時からSPレコードを

研究素材としており、そのときご縁をいただき専門研究となりました。田村コレクションの音楽資料を対象として、旧蔵者田村氏の思いや気概を伝える研究をはじめます。

蓄音器にレコードを  
セットしたところ



## 催事・展示クローズアップ

### Ⅲ 2017年度公開展示「新種発見！ 昆虫冒険旅行」

#### — 天神地下街初の昆虫展 —

期間：2017年8月15日(火)～8月31日(木)

※志摩歴史資料館は、8月1日(火)～8月31日(木)

担当：丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

場所：第1会場 「アジア・アフリカ編」天神地下街イベントコーナー

第2会場 「南米編」箱崎キャンパス旧工学部本館3階

第3会場 「新種発見編」箱崎キャンパス旧工学部本館3階

第4会場 「日本編 小松貴写真展」志摩歴史資料館



天神会場の様子

当館では2009年以来、毎年昆虫に関する展示を行っています。本年度は公開展示として大規模に行いました。本展示を開催するにあたって、昆虫を展示材料として考えた場合、まず莫大な多様性を有するということが「新種」、次に新種発見のための「調査旅行」、さらには単純にその多様性を実感していただくために「たくさんの標本や写真」という3つの魅力的な(に思える)言葉を思い浮かべました。

その考えのもと、今回は3つの会場で展示を企画しました。1か所目は天神地下街です。私は通勤の際、毎日天神地下街を通るのですが、いつかここで展示ができないものかと常々考えていました。聞くとところによると、毎日3-4万人の通行人がいるそうで、きっとここでやれば多くの人に来ていただけと思ったのです。



箱崎会場の様子

そして無事に天神地下街の北広場にある「イベントスペース」を確保し、展示に踏み切りました。ここでは「アジア・

アフリカ編」とし、アジアとアフリカに生息する大型美麗種の標本を並べるとともに、私が海外で行った調査の旅行記をパネルとして展示しました。標本だけではすぐに見終わってしまうことがあるので、パネルを読んでいただき、ゆっくりと観覧いただこうと思ったわけです。

この立地と展示内容の目論見は大成功で、天神地下街だけで16日間で4万人を超える方々にご来場いただき、当館単独の展示としては最多の記録となりました。アンケートの感想はほとんどすべてが高評価で、感動した、またやってほしいとの声を多数いただきました。

次に箱崎キャンパスのエレベータ前会議室で、「南米編」として、同じく南米の昆虫標本と調査旅行記のパネルを展示しました。また、九大には数多くの昆虫研究者がおり、その方々に書いていただいた新種発見記をパネル化し、「新種発見編」として当館の常設展示室に展示しました。天神でスタンプラリーを行ったこともあり、こちらも多くの人々にご来場いただき、高い評価をいただきました。



チラシ

また同時開催(開始は8月1日)で、志摩歴史資料館において、「日本編」として、写真家で昆虫学者の小松貴氏による日本の昆虫の美しい写真と解説を展示しました。こちらも好評をいただきました。

個人的に面白かったのは一人で来ている女の方が非常に多かったことです。一般的に嫌われがちな昆虫ですが、実は密かに好きな

人が多いのかもしれませんが。来年以降も昆虫に関する展示を続け、昆虫の魅力をお伝えしたいと思います。



# Close-up Event & Exhibition

## Ⅳ 公開講演会「私たちの昆虫旅行」

—大盛況に終わりました—

期間：2017年8月26日(土)

場所：箱崎キャンパス旧工学部本館1階大講義室

担当：丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

今年度の公開講演会は、2017年度公開展示「新種発見！昆虫冒険旅行」の同時開催として実施しました。

九州大学に多数の昆虫研究者がおり、昆虫分類学(新種を発表したり、多くの人に昆虫の名前を同定しやすくする学問)だけでも10名近い方々が活躍されています。今回の講演会では、以下の方々により各演題のご講演をいただきました。

三田敏治「飛べないハチを追って西へ東へ」

細石真吾「カンボジアのアリ調査」

丸山宗利「ケニアで好蟻性昆虫とツノゼミの採集」

小松 貴「とあるハエとの個人的な付き合い」

三田さんと細石さんはそれぞれ農学部と熱帯農学研究センターの助教で、ハチとアリの専門家です。そして私は

好蟻性昆虫とツノゼミが専門。小松貴さんはアリヅカコオロギが専門で、同時に昆虫写真家としても活躍しています。昨年度まで



会場風景

熱帯農学研究センターでポスドクをしており、今年から国立科学博物館で研究生をしています。いずれも九州大学関係の若手研究者です。

まずは当館の館長であり、実はアリ学者の緒方一夫教授の挨拶から始まりました(もともと、最近ではヒアリの研究よりヒアリングにお忙しいようです)。

それから三田さんがラオスやベトナムでの調査の様子を紹介しました。深刻なイネの害虫であるウンカの天敵となるカマバチを通じて、昆虫の移動など、いろいろなことを知ることができるようです。ラオスで昆虫を食べる文化

### COLUMN 館員による新著紹介

## 『昆虫こわい』(幻冬舎新書)を出版

担当：丸山 宗利 一次資料研究系・准教授



『昆虫こわい』

出版社：幻冬舎

書籍分類：新書

発売日：2017年7月28日

私は毎年、昆虫採集を目的とした海外調査に出かけています。調査にでかけるたびに、面白いこと、感動したこと、悲しいこと、恐ろしいことなど、さまざまな出来事があります。その出来事を旅行記として1冊にまとめたのが本書です。落語の「饅頭こわい」にかけて、実は昆虫大好きという話なのですが、詳しくはご一読ください。

が発達している点も興味深い話題でした。

次に細石さんがカンボジアでのアリの調査の様子を紹介です。カンボジアはアリの研究では未踏の地で、さまざまな新発見があったようです。そしてカンボジアの美味しい料理なども見せてくれました。

私はケニアで行った好蟻性昆虫とツノゼミの調査の様子を紹介しました。アフリカには独特な昆虫が多く、ケニアは案外食べ物がおいしい国でした。

最後に小松さんが「ステュロガステル」というメバエ科のハエを追いかける話です。発見や撮影



ステュロガステル

までの苦労話に多くの人を引き込まれ、最後には笑いと涙の喝采で講演の幕を閉じました。

お子さんを含む約180名の来場者があり、会場からは多くの質問が出て、大盛況の講演会となりました。

# Close-up Event & Exhibition

催事・展示クローズアップ

## V 「カイコの教室」 —お話と繭からの糸取り体験—

期間：2017年8月26日(土)

場所：旧工学部本館3階第一会議室

担当：丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

福原 美恵子 研究支援推進員

公開展示「新種発見!昆虫冒険旅行」の関連事業として、小学生とその保護者を対象とした「カイコの教室」を8月26日(土)に開催しました。夏休み



カイコの「め」はどこにあるかな?

の生活や人の暮らしの中での役割をカイコの大きな模型や生体も示して、講義いただき、続く実習では、各自が繭から糸を根気よく巻き取りました。

参加した子供達の多くが、カイコや昆虫に大きな興味を持っていて、「カイコの幼虫の眼はどこかなあ?」という伴野先生の質問には、たくさんの手が正確な場所を示してくれました。自宅で飼育しているカイコの不思議を伴野先生に質問して解決したり、「まゆの中にさなぎじゃないクシャツとしたのもあったよ」、「ウスタビガのまゆを見たことあるよ」など、観察したことを私達に伝えてくれたりと、楽しく有意義な教室でした。

円滑な教室運営には、学生、博物館ボランティアの皆さんのご協力をいただきました。感謝いたします。



カイコについて勉強中。真剣。

最後の週末にもかかわらず、21人の子供達と保護者19人が参加されました。

農学研究院の伴野豊准教授には、カイコ



繭から糸をとっています。

## VI 標本にみる 九州大学の研究

期間：2017年4月17日(月)～7月10日(月)・7月10日(月)～

場所：中央図書館2階

担当：丸山 宗利 一次資料研究系・准教授

米元 史織 開示研究系・助教

九州大学箱崎キャンパスの中央図書館2階エントランスにある常設展示コーナーでは、「標本にみる九州大学の研究」と題したシリーズ展示を中央図書館と共催で行っています。今年は4月から6月まで「糸島の哺乳類」を、7月からは「骨格標本」の展示を行いました。

### 糸島の哺乳類

九州大学には数多の自然史標本がありますが、そのなかで哺乳類の本剥製が「弱点」でした。教育や展示に使える状態の良い標本がほとんどなかったのです。そこで3年前と4年前に糸島市と福岡市で猟師さんや学生に呼び掛け、標本の収集を開始。事故や駆除によって死んだものを中心に、シカを除くすべての大型哺乳類を揃えることができました。今回はその一部を「糸島の哺乳類」と題して図書館で展示しました。期待した通り、本剥製は展示等に実用性が高く、あちこちから借用の依頼も来ており、今後も活用の予定です。



「糸島の哺乳類」展示風景

### 骨格標本

剥製標本の展示との連続を意識して、九州大学の自然史標本の一つである哺乳類を中心とした骨格標本の展示を行いました。これらの標本は大正3、4年に作成され比較解剖学という医学の授業で使用されていました。生き物の形の類似や差異に興味を持ってもらえると幸いです。



「骨格標本」展示風景

## Series : Courses Related to the Museum

## シリーズ・大学博物館の授業紹介

## その6：放送大学

## 大学博物館への招待 2

岩永 省三・中西 哲也・三島 美佐子・丸山 宗利・米元 史織 九州大学総合研究博物館教員

このシリーズでは、総合研究博物館と関連する様々な授業を紹介してきました。本シリーズ6回目となる今号でとりあげるのは、2016年に引き続き当館が協力した放送大学の面接授業です。

2017年7月8日(土)・9日(日)に放送大学の面接授業「大学博物館への招待」が九州大学旧工学部本館(総合研究博物館)で開講され、約30名の学生が受講しました。この授業は、2016年に初めて当館で開講され、今回で2回目となります。2016年に発行した総合研究博物館ニュース25号で、放送



(岩永教授)・「鉱山大国日本の記憶①・②(中西准教授)」・「昆虫の多様性①・②(丸山准教授)」・「古人骨から生業を見る(米元助教)」・「生涯学習の場としての博物館～実践を通して(三島准教授)」と多岐にわたるものとなりました。

どの授業も各学問分野を概観するような内容の講義を行った後に、バックヤードをまわりながら、資料を実際に紹介していくものでした。普段は目にするのできない貴重な資料を専門家の解説付きでみることでできた当館での経験が、受講生の方々の博物館の見方、楽しみ方に今後活かされていく

大学での授業の概要を詳細に掲載しています。今年も朝10:00から夕方16:50まで、2日間で計8コマの集中授業が行われました。

授業の内容は「大学博物館の意義と機能

(岩永教授)・「九大の歴史遺産とその保全

と幸いです。来年度も継続して、4月に開講予定となっています。多くの方に総合研究博物館に訪れていただく機会となることを楽しみにしています。(文章:米元)

写真1:丸山准教授による昆虫解説 写真2:三島准教授による博物館活動に関する講義  
写真3:中西准教授による列品室の解説 写真4:岩永教授による会議室壁画の解説



放送大学

## COLUMN 博物館の活動

## 石見銀山世界遺産登録10周年

担当: 中西 哲也 分析技術開発系・准教授

平成29年7月2日に、島根県大田市の石見銀山が世界遺産登録10周年となりました。石見銀山は16世紀に発見され、銀鉱石に鉛を加えて製錬する技術を導入する事で銀の生産量を伸ばしました。その技術は佐渡や生野をはじめ国内各鉱山に伝播し、日本の銀生産量の増加に貢献。銀の輸出を契機に

国内各地の鉱山遺跡が再評価されるきっかけとなりました。登録後も発掘調査、文献調査、石像物調査、地質学的調査等が継続して行われており、筆者も年に数回現地で露頭や鉱石、製錬滓の調査を行っています。

登録10周年を記念して、7/14～9/3に石見銀山展が古代出雲歴史博物館・石見銀山

日本が世界貿易に組込まれる事になりました。

石見銀山は、国内の鉱山遺跡としては初めて世界遺産に登録され、

資料館で行われました。当館からも石見銀山の銀鉱石(福石)をはじめ7点の標本・史料を貸出し、展示に協力しています。



九大所蔵の石見銀山の銀鉱石(福石:幅12cm)



## Series : Research at the Kyushu University Museum

シリーズ・九大博物館での研究の紹介

踏査旅行

## イギリス調査旅行記 2 –キリスト教石彫探訪–

岩永 省三 一次資料研究系 専門:考古学

昨年夏に続き、今年もイギリスで中世前期(アングロ・サクソン期～ヴァイキング期)のキリスト教石彫を調査した。昨年は古都ヨーク及びヨークシャー東部をバスと徒歩で廻ったが、今回はヨークシャー北部をレンタカーで廻った。延々たる田園地帯を走り回る事1330キロ、64教会・3城跡・2博物館を見て回った。

ブリテン島へのキリスト教の伝来・定着の様相は複雑である。初期には、ローマ帝国支配下でローマ人がキリスト教を持ち込み、西方正統派教会が成立した。その後ローマ人はブリテン島を放棄し、入れ替わってアイルランド出身のコロンバを中心とした修道僧が布教活動を行い、いわゆるケルト系教会が成立した。その後5世紀後半から6世紀初頭にかけて、アングル族やサクソン族のブリテン島への侵入によりケルト系教会は破壊的打撃を受け、アイルランドおよびスコットランドの辺境でのケルト系教会の孤立化が進んだ。この頃、東方系修道院が両地域に進展したため、ケルト系教会が東方系修道院化した。一方、6世紀末葉に西方正統派教会のグレゴリウス1世がアウグスティヌスをブリテン島に派遣したことで、両系統の調整が必要となった。ウ

イトビーでの会議の結果、正統派教会の主張が認められたため、次第に正統派教会がブリテン島内での基盤を獲得するに至った(小嶋 潤 1998『イギリス教会史』による)。

キリスト教石彫は、中世前期に制作された装飾を持つ石造物で、主に記念碑や墓標であったと考えられている。当初は教会の境内や内部に設置されたが、ノルマン期に入り古い教会が大陸起源のロマネスク様式へと改築される

に伴い、しばしば建築材に転用された。そのため、本調査の対象資料も壁に埋め込まれたものが過半数を占めた。本調査では、それらの文様や加工痕を詳細に観察した。昨年は写真撮影と文様線の断面実測のみだったが、今回は拓本も敢行し、写真ではデータ化するのが困難な加工の痕跡を記録した。

調査地のうち、某大富豪が購入した大邸宅敷地(面積は箱崎地区ほど)に取り込まれた廃教会で保管中の石彫群の調査機会が得られたのは幸いだった。地元の教会管理者(彼自身が直系200mの円形環濠・土塁に囲まれた領主館跡の豪邸に住む)の紹介が得られたからである。この大富豪が古い館を豪華に修築中なのだが、この館、幽霊付きというところが、何ともイギリス的であった。



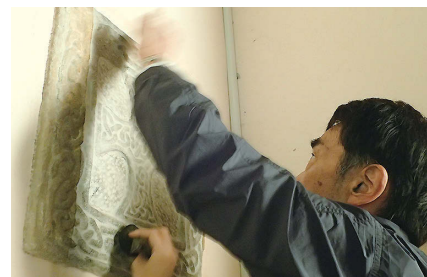
ウィットビー修道院



キリスト教石彫群



リチャード3世ゆかりのミドラム城



拓本採取中

# New Director

## 新館長着任

着任のご挨拶と研究紹介

# 就任のご挨拶

緒方 一夫 九州大学総合研究博物館第8代館長 専門:昆虫学



1999年の早春のことだったと思う。九州大学熱帯農学研究センターの研究室で仕事に、当時の農学研究院長山崎信行教授から突然呼び出された。いわく、「九州大学に博物館を設置する構想がある。現在、概算要求の最終プロセスになっているが、文部省(当時)へ提出する文書作成を手伝ってこないだろうか」というものである。かくして

私は九州大学の博物館設置に巻き込まれた。概算要求対応のタスクフォースは、それから約4ヶ月あまり、先行大学での事例、九州大学としての博物館の内容など、大学博物館について集中的に論議した。大学本部に呼び出され、文科省からの要求に応えるべく、徹夜で文書を修正、気がつくとき雀の声が聞こえていたということもあった。最終的には文部省でのヒアリングにかり出され、助教授でありながら問答にまで同席したのは、ついこの間のように思い出される。当時、「開かれた大学」がキーワードであり、大学博物館はこの機能を担うものとして構想されていた。同時に、大学で研究に供された資料が失われることに対する危機感もあった。

私はアリの分類で学位を取得後、九州大学熱帯農学研究センターで国際協力を実践し、現在は大学の国際化を推進する立場にある。発展途上国での農学国際協力から留学生の教育へ、さらには文科省の「グローバル30」事業での大学の教育国際化を経て、「スーパーグローバル大学(SGU)創成支援」に関わっている。しかし、今でも進化や自然史の記事・書籍・論文を読むと心が躍る。箱崎キャンパスが伊都キャンパスへと移転する最終段階に再び、館長として九州大学総合研究博物館に就任したのも、何かの縁なのだろう。SGU担当副学長と熱帯農学研究センター長を兼任することになるが、18年前の熱い思いを再び胸に、館長の業務に取り組みたいと思っている。

博物館とは本来わくわくするところである。大学での研究の遺産・探求・発見をうまく伝え、研究成果を生み出すことができるように、そしてキャンパス移転が九州大学総合研究博物館の転機となるよう尽力する決意である。



アリコレクション



エジプトにて



ハノイの農園でのアリ調査



バングラデシュ農村での国際協力

## Series : Research at the Kyushu University Museum

シリーズ・九大博物館での研究の紹介

特別寄稿

九州大学の鉱物標本紹介  
—日本の鉱物学黎明期コレクションを次の世紀へ—

上原 誠一郎 九州大学大学院理学研究院地球惑星科学部門 専門: 鉱物学

総合研究博物館に展示、収蔵されている鉱物標本は国の宝である。九州大学における鉱物学は当初は工学部採鉱学科で始まり、その後、農学部、理学部地質学科、旧教養部地学教室などで教育研究の一分野として行われてきた。自然科学において標本の観察と野外観察は教育

研究の原点であり、これらの展示標本は鉱物学、地質学、博物館関連の授業や研究で現在も活用されている日本最高の「教育遺産」である。ここでは第三分館に収蔵されている鉱物標本の中から日本の鉱物学黎明期に活躍した三人の標本を紹介する。

「高標本」は、九州の金属鉱山の見事な標本が多い、その数は約1200点になる。和田標本(三菱マテリアル所蔵)、若林標本(東京大学所蔵)と共に20世紀初頭の日本の三大鉱物標本の一つにあげられている。その中の唯一の展示標本でもある。学術的に極めて貴重な資料であり、国際的にも大変著名である。大学創立の明治44年から



高壮吉鉱物展示(総合研究博物館第三分館)

昭和4年まで九州大学工学部採鉱学教室の教授であった高壮吉先生による標本で、昭和14年理学部に地質学教室(現在、地球惑星科学教室)が創設された際に譲渡され、現在まで、地質学科(地球惑星科学科)の学生などの教育研究に利用されている。譲渡時は本部

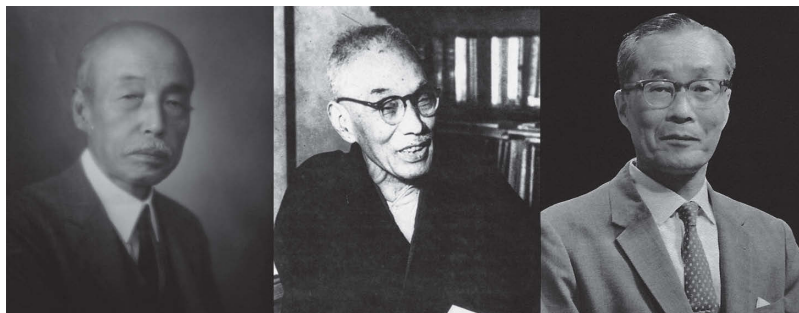
事務局2階に展示されていた。その後、4回の移転後、平成19年10月に総合研究博物館第一分館、同27年8月に同第三分館に移転し、展示公開されている。

「岡本標本」は九州大学で講師を務めた岡本要八郎先生が福岡県と長崎県の鉱物を調査研究するために集められたもので、その成果は、「福岡県鉱物誌」

(1944)と「長崎県鉱物誌」(1958)として出版された。日本の鉱物学黎明期に鉱物学を学んだ先達の貴重な標本で、昭和天皇の昭和24年の行幸に際して展示された標本(標本に【天覧】と書き込み)や当時の日本新産種、現在では入手できない標本が数多く含まれる。点数は約800点。



硫砒鉄鉱/大分県尾平鉱山/標本左右58cm/高標本No.1508



高壮吉先生、岡本要八郎先生、吉村豊文先生



## Event & Exhibition Info.

### 催事予告

AQAプロジェクト2017による美術展

### そしてはこぶねはゆく (仮題)

期間：2017年12月15日～2018年2月13日(予定)

場所：常設展示室

担当：後小路 雅弘 九州大学大学院人文科学研究院・教授



筑紫キャンパスを調査する  
AQAプロジェクト

九州大学文学部で美術史や美術館学を学ぶ学生たちで構成するAQAプロジェクトは、毎年美術館やアートスペースと共同で美術展を企画開催してきました。今年度は、昨年福岡県立美術館などで開催された「九大百年 美術をめぐる物語」展の成果をふまえて、九州大学が所蔵する作品の中から、学生なりの視点で展覧会を構成します。テーマは「はこぶね」。それは旧約聖書の「ノア方舟」であり、同時に「箱崎という船」でもあります。

移転、解体を目前にした箱崎キャンパスから、学生たちはなにを選んで「はこぶね」に載せ、未来へと運ぶのでしょうか。

## Status Report

### 資料のその後

### 当館資料に関する報告

九大病院カルテ資料のその後

担当：岩永 省三 一次資料研究系・教授

ニュースNo.10に掲載の「九大病院カルテ資料」で、昭和60年以前の九大病院カルテを、平成20年1月に当館に移管したとお知らせしました。その後、情報公開法・公文書管理法等の法律制定に伴い、九大病院カルテ資料を博物館資料として保管することが困難となりましたため、適切な部局に移管しました。当該カルテ資料は当館にはありませんのでご了承ください。

## Personnel Changes

### 人事往来

### 着任・退職

事務補佐員の森崎美樹は、平成29年3月31日限りで退職いたしました。

平成29年5月1日付けで、鶴岡圭子が事務補佐員として着任いたしました。

# Activities of Exhibitions & Conferences

## 展示・講演会関係の活動状況

### 公開展示

- 「新種発見！ 昆虫冒険旅行」  
期間：29年8月15日(火)～8月31日(木)  
志摩歴史資料館は、8月1日(火)～8月31日(木)  
場所：第1会場「アジア・アフリカ編」天神地下街イベントコーナー  
第2会場「南米編」箱崎キャンパス旧工学部本館3階  
第3会場「新種発見編」箱崎キャンパス旧工学部本館3階  
第4会場「日本編 小松貴写真展」志摩歴史資料館  
主催：総合研究博物館  
共催：志摩歴史資料館  
協賛：(株)幻冬舎  
後援：福岡市・福岡市教育委員会・西日本新聞社・毎日新聞社  
協力：埼玉県立自然の博物館 吉田雅則  
学内協力：農学研究院・比較社会文化研究院  
・基幹研究院・熱帯農学研究センター

### 公開展示関連事業

- 公開講演会「私たちの昆虫旅行」  
期間：平成29年8月26日(土)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館1階大講義室
- 「カイコの教室」  
期間：平成29年8月26日(土)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館3階第一会議室

### 特別展示

- 「骨を語る」  
一骨の見方、お教えしますー  
期間：平成29年5月13日(土)～8月6日(日)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館3階常設展示室

### 共催展示

- 佐賀県立博物館夏休み企画テーマ展  
「おもしろいぞ、ほね！ Bones展」  
期間：平成29年7月21日(金)～8月20日(日)  
場所：佐賀県立博物館3号展示室

### 展示協力

- ミュージアムパーク茨城県自然博物館第68回企画展  
「アンモナイト・ワールドー恐竜時代の海へいこうー」  
期間：平成29年2月18日(土)～6月11日(日)  
場所：ミュージアムパーク茨城県自然博物館
- 九州大学工学部「工学部の百年展」  
期間：平成29年3月28日(火)～5月31日(水)  
場所：伊都キャンパス椎木講堂1階 ギャラリー、展示コーナー
- 「石ふしぎ大発見展2017第23回大阪ショー」  
特別展示：九州大学の鉱物標本コレクションー標本が語る歴代研究者達の情熱  
期間：平成29年4月29日(土)～5月1日(月)  
場所：大阪 天満橋「OMMビル」2階
- 世界遺産登録10周年記念「石見銀山展ー銀が世界を変えたー」  
期間：平成29年7月14日(金)～9月3日(日)  
場所：島根県立古代出雲歴史博物館
- 面河山岳博物館第51回特別展「巨大昆虫・微小昆虫」  
期間：平成29年7月21日(金)～9月3日(日)  
場所：面河山岳博物館

### ラジオ出演

- NHKラジオ第一放送とNHKワールド・ラジオ日本  
「NHKラジオ夏休み子ども科学電話相談」  
(丸山宗利 准教授)  
平成29年8月3日(木)、4日(金)、28日(月)、29日(火)

### 博物館施設一般公開

- 開学記念事業に伴う一般公開  
期間：平成29年5月13日(土)  
場所：総合研究博物館第三分館・工学部列品室・常設展示室・会議室
- 福岡ミュージアムウィーク2017参加に伴う施設公開  
期間：平成29年5月13日(土)～21日(日)  
場所：総合研究博物館常設展示室  
期間：平成29年5月13日(土)、14日(日)、5月20日(土)  
場所：総合研究博物館第三分館
- オープンキャンパスに伴う施設公開  
期間：平成29年8月5日(土)、6日(日)  
場所：総合研究博物館常設展示室、第三分館

### 特別企画

- 「地質の記念日 プロフェッサー前田の化石講座」  
期間：平成29年5月13日(土)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館2階4番講義室

### ミュージアムカフェ

- 「SPレコードに魅せられてー昭和の博多のうたを聴く」  
期間：平成29年4月9日(日)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館4階会議室  
主催：総合研究博物館 協力：芸術工学研究院、人文科学研究院
- 「名ものしらべー九大博物館のコレクションで聴くSPレコードの世界ー」  
期間：1回目 平成29年9月23日(土)、2回目 10月7日(土)  
場所：箱崎キャンパス旧工学部本館4階会議室  
主催：総合研究博物館 共催：芸術工学研究院

### 学内連携企画

- 中央図書館シリーズ展示ー標本にみる九州大学の研究ー  
第7弾「九州大学の昆虫標本 part.4」  
期間：平成28年10月27日(木)～平成29年4月17日(月)  
第8弾「糸島の哺乳類」  
期間：平成29年4月17日(月)～平成29年7月10日(月)  
第9弾「九州大学の骨格標本」  
期間：平成29年7月10日(月)～  
場所：中央図書館(箱崎)2階エントランス常設展示コーナー

### サテライト巡回展示

- 福岡県の蝶9  
期間：平成29年3月17日(金)～継続中  
場所：糸島市図書館二丈館(糸島市旧二丈庁舎)

### Others

#### その他の活動状況

### 運営委員会

平成29年 5月25日  
平成29年 8月 3日(書面回議)

### 団体見学

平成29年 4月22日(土) 芸術工学部新入生 42名  
平成29年 5月17日(水) 工学部化学機械工学科同窓会 30名  
平成29年 5月26日(金) 中山守彦・平次郎氏親族 4名  
平成29年 6月16日(金) 福岡市科学館開館準備室 7名  
平成29年 6月17日(土) 九州産業大学 40名  
平成29年 8月 3日(木) 九州大学公開講座(人間環境学研究院) 20名  
平成29年 9月 6日(水) 九大ヨット部同窓生 10名  
平成29年 9月 7日(木) 芝浦工業大学理工学部 9名  
平成29年 9月11日(月) 福岡県南地区大学学務系職員研修会 25名  
平成29年10月 4日(水) 工学部建築学科(小山教授)  
平成29年10月12日(木) 山口大学教育学部附属中学校PTA 36名

## 総合研究博物館 ウェブコンテンツの紹介

九州大学総合研究博物館  
では、公式ウェブサイトの他にも、  
様々なウェブサービスを活用  
して最新情報やコンテンツを  
発信しています。ぜひアクセス  
してみてください。

- 公式HP <http://www.museum.kyushu-u.ac.jp>
- Facebook  
日本語 [facebook.com/KyudaiMuseum](https://www.facebook.com/KyudaiMuseum)  
英語 [facebook.com/TheKyushuUniversityMuseum](https://www.facebook.com/TheKyushuUniversityMuseum)
- Twitter [twitter.com/Kyudai\\_Museum](https://twitter.com/Kyudai_Museum)
- Vimeo [vimeo.com/KyudaiMuseum](https://vimeo.com/KyudaiMuseum)
- Flickr [flickr.com/KyudaiMuseum](https://www.flickr.com/photos/KyudaiMuseum/)